

原子力空母ルーズベルトのコロナウィルスの乗組員と感染者の4500名の隔離施設として、沖縄の米海兵隊基地内と、厚木の米海軍基地内の住宅等への移送計画が検討される

米海軍の原子力空母セオドア・ルーズベルトは、米本国のサンディエゴを母港としていますが、3月5日から9日まで、ベトナムのダナンに寄港が原因と思われるコロナウィルス感染者が3月24日に発見され、3月27日にグアムに寄港してからも艦内で急速に感染者が増加して、最終的に乗組員の約4分の1の1248名が感染して、1名が死亡し、乗組員の緊急事態への救援を訴えたクロージャー艦長が、米海軍によって解任されたことが大きくされて来ましたが、この問題に関する米海軍の司令部調査報告書が6月19日に完成して、米海軍のホームページで公開されました。

その報告書によると、最終的にグアムの民間ホテルに大部分が収容された原子力空母ルーズベルトのコロナウィルスの乗組員と感染者の4500名の隔離施設の第1候補として3月24日の感染者が発見されてから、27日にグアムに入港して以降にかけて、第7艦隊司令部により、沖縄の米海兵隊基地内と、厚木の米海軍基地内の住宅等への移送計画が検討されていたことが、明らかになりました。

報告書による事実経過

- 1、第7艦隊は、同艦隊の艦船でコロナ感染者が大量発生した場合の臨時寄港地として、
 - 1) 沖縄のホワイトビーチが最適だが、コロナ感染者の乗る艦船寄港は政治的に難しい
 - 2) 横須賀は、乗組員を下船させられる施設が限られている。
 - 3) グアムが良い候補地と考えるが、コロナ感染者の乗る艦船寄港は政治的に難しい。と検討した結果、判断していた。(D-6)
- 2、感染者が出た翌日の3月25日、第9空母攻撃隊司令官の4000室が必要とのメールに、第7艦隊司令部は、沖縄、厚木、グアムをオプションとして検討を開始した。
(63頁 海軍のグアムの施設は使わないとの発表と、緊急事態宣言をしているグアム政府との関係から、グアムのホテル使用は当初優先順位は低かった。)
- 3、3月26日 第7艦隊司令部は、第3遠征軍司令官(沖縄海兵隊)から、沖縄の5000室をルーズベルトの隔離室に提供可能できると提案された。(44頁)
- 4、3月27日の第7艦隊司令部と、第3遠征軍との会議で、沖縄には3000室、厚木に400-600室、移送先として利用可能な部屋があるとしていた。(56頁)

5、3月28日、第7艦隊司令部官はルーズベルトの乗組員を沖縄に空輸する計画を、第9空母攻撃部隊司令官とルーズベルト艦長に作成するよう命令し、第3遠征軍に普天間基地と、キャンプバトラー、その周辺の基地の宿舎を空けるように求めた。

ルーズベルト艦長は沖縄嘉手納基地海軍司令官に、5000室の提供を求め、基地司令官は、提供できるのは500室もないが、できることはする、との回答を受けた。

(57頁、D-36)

6、3月29日、第9空母攻撃部隊司令官は第7艦隊司令部にグアムのホテル利用を提案するが、第7艦隊司令部は引続き第1候補の沖縄案を検討せよと回答した。

しかし同日太平洋艦隊司令部は、9時間の空輸による感染拡大のおそれと、日本政府との関係を複雑にすることを理由としてこの第7艦隊司令部の沖縄移送案を拒絶した。

(59頁)

問題点

- 1、現在も、沖縄や厚木、横須賀基地内のコロナウィルス感染情報の非公表が大きな問題となっている。
- 2、感染情報が全く非公表のまま、約4分の1の感染者を含む4500名ものルーズベルト乗組員が沖縄と厚木に移送されていたら、大変な問題を発生させることとなったであろう。
- 3、問題は、その計画がグアム自治政府と異なり、日本政府等の頭越しに、米海軍によって一方的に検討されていることである。

この計画についての日本政府や、沖縄県への協議はあったのかの事実確認を求めたい。